49日向市新庁舎建設事業

受賞機関 日向市

キーワード 庁舎建替え、たまりの場、市民との対話

全建賞審査委員会の評価ポイント

老朽化、狭隘化していた日向市役所の建替えにあたり、多くの市民が集う"たまりの場"となるよう、市民との対話の機会を多く設けるなど、ハード整備とソフト施策の一体的な取組み。設計段階から市民と双方向の「対話」を重ねるとともに、イベントの開催を通じて市民に新庁舎に対する親しみを抱いてもらったことで、オフィスビルとしての役割を超えた、市民の集うたまりの場となる施設となっている点が評価された。

1. はじめに

建設から50年が経過していた日向市旧庁舎は、老朽 化に加え耐震性にも大きな課題を抱え、また、人口増や 行政需要の多様化に伴い、庁舎の狭隘化や窓口の分散化 が進んでいた。

平成23年の東日本大震災で、防災拠点施設となる庁舎の重要性が再認識されたことで、市民の庁舎に対する安全性を懸念する声もあがり、平成25年度に新庁舎建設事業に着手した。

2. 事業の概要

新庁舎の整備にあたっては、防災拠点施設としての機能強化を図ることはもとより、市民一人ひとりが、「わたしの市役所」と感じることのできる、市民の皆さんから親しまれる市役所の実現を目指してきた。設計から工事期間中、段階ごと継続して、市民現場見学会など市民参画の機会を積極的に設けて、事業進捗を図ってきた。市役所が単なるオフィスビルとしての役割だけでなく、英訳通り"City Hall"として、多くの市民が集い、交流する場(たまりの場)となるべく、ハードと併せてソフト施策を表裏一体的に推進しつつ、整備を進めてきた。



地場産材を多用した「日向市新庁舎|

3. 事業の成果

公募により市民からメンバーを募った基本設計段階時の「市民ワークショップ」や工事期間中に *市民の集い場(たまりの場)*における日常の活用策について議論を重ねた「日向市役所建設応援団・夢たまり」の活動において、市民の意見を積極的に聞く機会を設けたことは、開かれた市役所の実現に大きく寄与した。また、市民の意見を一方向で聞くだけでなく、市民とのキャッチボール、密度の濃い「対話」を重ねてきたことが、建物本体の秀逸した景観形成につながり、さらには、「市民(人)が主役で、市役所は舞台」という、利用する市民を主体にした施設づくりの本質が、炙り出された庁舎となった。

また、新庁舎は、中心市街地に位置しているが、これまで同地において整備してきた駅前交流広場やステージ等の "舞台"に加えて、今回、そのまちづくりコンセプトを踏襲した市役所という新たな "舞台"が加わったことは、人の交流、流れ等、相乗的な効果をもたらすものと考えている。

4. おわりに

昨年5月の供用開始以降、市民ホール等で、勉学に励む学生の姿やテラスで弁当を広げる家族連れなど旧庁舎にはなかった新たな市民の交流が、市役所の日常風景のなかで、多世代で広がりつつある。



テラスでお弁当を広げる幼稚園児

後世にわたって、市役所が、市民の皆さんにとって身近な親しみある市民の集い場として、さらには、日常的に市民のまちづくりを牽引、後押しする施設であり続けることを願ってやまない。

賛助会員 (株)熊谷組